

第2次浜松市がん対策推進計画中間評価 「今後の取り組み」に関する自己評価結果（最終案）

◎：目標達成 ○：目標達成に向けて順調に推移 △：未着手、現状値なしなど
×：目標達成が厳しい状況

第3章 がんの予防・早期発見対策の推進

1 がんの予防

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
①	たばこ対策の推進			
	<p>○ 市は、「健康はままつ21」に基づき、たばこ対策を一層充実させます。</p> <p>ア 市は、未成年者に対したばこの害について啓発し、喫煙防止を目指します。</p> <p>イ 市は、禁煙を希望する市民を支援するため、禁煙相談を実施し、医療保険による禁煙治療等について情報提供します。</p> <p>ウ 市は、市施設等における敷地内又は建物内禁煙に取り組みます。将来的には敷地内の全面禁煙を目指します。</p> <p>エ 市は、家庭・職場・飲食店等における、より一層の受動喫煙防止対策を図ります。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の保育園等で未就学児防煙教室を実施し、たばこの害や喫煙が及ぼす影響について啓発している。 ・平日日中及び夜間を実施する禁煙相談では、禁煙に関する情報提供を行うなど禁煙に取り組む市民を支援している。 ・市施設については「市施設における受動喫煙防止対策の基本方針」を設け、健康増進法に基づく類型に応じて、対策を実施している。 ・市民や事業所等へちらしやポスター、ステッカー等配布したり、受動喫煙に関する相談に随時対応する体制を整えている。
②	食生活改善の推進			
	<p>○ 市は、食生活の乱れが、がんの一因であることから、「健康はままつ21」及び「浜松市食育推進計画」の目標達成に向けた取り組みを継続し、バランスのとれた食事、野菜摂取、減塩等について、普及啓発します。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「はままつ食 de 元気応援店事業」において登録店舗を増やし、食の環境整備として、バランスのとれた食事、野菜摂取、減塩等について、普及啓発を実施している。 ・官民連携で取り組む浜松ウエルネスプロジェクトでは、ベジメータ測定を実施し、数値を見える化することで、野菜摂取量

				<p>の増加を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市医師会と共催で「減塩低カロリープロジェクト」を実施し、減塩に取り組んでいる。
③	その他生活習慣の改善			
	<p>○ 市は、健康はままつ21推進協力団体をはじめ、地域や職域保健関係機関との連携・協働により、広く市民に対して、生活習慣の改善が、がん、心筋梗塞、脳卒中などの予防に果たす役割を啓発します。</p> <p>○ 市は、市民が自ら積極的に、食や運動等の生活習慣の改善に取り組むことができるように支援します。</p> <p>○ 市は、職域保健関係機関との連携・協働により、青壮年期からの生活習慣病の発症予防・重症化予防に取り組めます。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・健康はままつ21推進会議や専門職が職場に出向いて実施する「職場で健康講座」、官民連携で取り組む浜松ウエルネスプロジェクトにおける「がん検診受診キャンペーン」など、がんや生活習慣病の重症化・発症予防に関する情報提供や事業を実施している。 ・企業が行う健康経営の取組を支援している。
④	<p>ウイルス等への感染対策</p> <p>○ 市は、肝臓がんに関連する肝炎ウイルスの検査体制の充実や普及啓発を通じて、肝炎の早期発見・早期治療につなげることにより、がんの発症予防に努めます。</p> <p>○ 市は、母子感染による成人T細胞性白血病等を防止するため、妊婦健診におけるHTLV-1検査に引き続き取り組めます。</p> <p>○ 市は、胃がんに関連するヘリコバクター・ピロリの感染及び子宮頸がんに関連するヒトパピローマウイルスの感染への対策については、今後も国及び静岡県の動向を注視し検討します。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・肝炎ウイルス検査の公費負担を実施。(40歳以上で過去に肝炎検診を受けたことがない者) ・今後においても、妊婦健康診査におけるHTLV-1検査を実施していく。 ・ピロリ菌感染症が胃がんのリスク要因としての関りが大きいと考えられているが、国ではピロリ菌抗体検査の判定基準や除菌による胃がん発症予防の有効性等について、現在検証が進められている。 <p>本市のがん検診は国の「がん検診実施のための指針」に準拠し実施しており、ピロリ菌検査については国の動向を注視し検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトパピローマウイルスの感染を予防するためのHPVワクチン接種においては、国の令

				<p>和3年11月26日付け通知をもって積極的な勧奨が再開された。現在、国は積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した者への対応について議論しているため、国の動向を注視し、国の方針に基づいた体制整備を行う。</p>
--	--	--	--	--

2 がんの早期発見

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
①	<p>がん検診の実施状況の把握</p> <p>ア 市は、医師会と連携し、がん検診の実施体制に対する検討を行います。</p> <p>イ 市は、がん検診の受診率の算定にあたっては、40歳から69歳まで（子宮頸(けい)がんについては、20歳から69歳まで）を対象とします。また、子宮頸(けい)がん、乳がん検診については2年に1回の受診が推奨されているため、当該年度と前年度の受診者数の合計に基づく受診率とします。今後も、国及び静岡県の動向を注視し、新たな計算方法が示された場合には、導入を検討します。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の実施体制について、今後、市において精度管理委員会を開催し、実施体制の整備を行う。 ・がん検診の受診率の算定は、40歳から69歳まで(子宮頸(けい)がんについては、20歳から69歳まで)を対象としている。 ・浜松市がん検診推進協定を締結した企業等と連携し、市が策定する「健康はままつ 21」に関する取り組みを推進している。 ・土・日曜日の休日に商業施設において、子宮頸がん・乳がん検診を実施し、市民の利便性の向上により、婦人科検診の受診率の向上を図っている。 ・市（産業部）の実証実験サポート事業に採択された民間企業と連携し、LINEを活用した受診勧奨を行うことで子宮頸がん検診の受診率向上を図っている。
②	<p>がん検診の受診率向上</p> <p>ア 市は、検診機関等との連携・協働によって、市民のがん検診受診率50%以上を目指します。</p> <p>イ 市は、静岡県対がん協会、健康はままつ21推進協力団体(浜松市がん検診推進協定締結企業等)との連携・協働によって、がん検診に対する市民の意識を高めるとともに、がん検診の受診率向上のための事業を展開します。</p> <p>ウ 市は、広報誌等の独自の広報媒体を活用して、がん検診の受診率向上を</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市がん検診推進協定を締結した企業等と連携し、市が策定する「健康はままつ 21」に関する取り組みを推進している。 ・土・日曜日の休日に商業施設において、子宮頸がん・乳がん検診を実施し、市民の利便性の向上により、婦人科検診の受診率の向上を図っている。 ・市（産業部）の実証実験サポート事業に採択された民間企業と連携し、LINEを活用した

	<p>図るとともに、検診未受診者へのがん検診に対する意識付けの強化などに努めます。</p> <p>エ 市は、未受診者に対し、更なる個別の受診勧奨を行います。</p> <p>オ 市は、精密検査未受診者への受診勧奨を行います。</p>			<p>受診勧奨を行うことで子宮頸がん検診の受診率向上を図っている。</p>
③	<p>精度の高いがん検診の実施</p> <p>ア 市は、がん死亡率の低下に寄与する科学的根拠に基づいたがん検診の種類や実施方法を選択するように努めます。</p> <p>イ 市は、静岡県のがん検診の課題等に係る検討内容を参考にして、がん検診の精度管理の向上について検討し、医療関係機関との連携を図っていきます。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も国の動向を注視し、科学的根拠に基づいたがん検診の種類と実施方法を選択していく。 ・静岡県がん検診精度管理委員会にて報告された「がん検診精度管理指標」を参考にし、本市のがん検診の精度管理の向上を図る。

第4章 地域がん診療連携拠点病院を中心とした医療体制の充実

1 地域がん診療連携拠点病院及び地域の関係機関・団体等の連携協力体制

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
	○ 市内の4つの地域がん診療連携拠点病院では各病院の強みを活かし、聖隷三方原病院は「緩和ケア支援」、聖隷浜松病院は「小児・AYA世代サポート」、浜松医科大学医学部附属病院は「人材育成」、浜松医療センターは「支持療法・がんのリハビリテーション」の各領域でリーダーとなり、地域全体の医療レベルの向上を図ります。	がん診療連携拠点病院	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で推進する緩和ケア連携のフレームワークを維持し、地域全体でカンファレンスを実施している。 ・聖隷浜松病院では「小児・AYA世代サポート」の役割として活動を実施した。R1年9月からがん患者における生殖機能温存を開始し、「未受精卵子の採取、凍結、保存」と「卵巣組織の採取、凍結、保存」を実施している。現在までに未受精卵子凍結を3件、胚凍結を7件実施した。また院内ではサポートメンバーの設立を行い、情報の集約ならびチームラウンド、院内カンファレンスを実施し、AYA世代サポートにおける基盤作りを行った。現在は、他施設間連携を行うためにメーリングリストを開設し横の繋がりを行うと共に、AYA世代サポート方法を紹介するなど、取り組みを広げるため地域に向けた活動を実施している。尚、今後は講演会の開催を企画中である。 ・市内4拠点病院等で年4回の支持療法担当者会議を開催。勉強会を開催するなど地域医療従事者の資質向上に努めている。
	○ さらに、4つの地域がん診療連携拠点病院が協働でワーキンググループを立ち上げ、がんゲノム医療、希少がん・難治性がん、病理診断、がん登	がん診療連携拠点病院	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援、がん教育などワーキンググループがあるものもある一方、ゲノム診療や希少がんなどワーキンググループと

	<p>録、就労支援、がん教育等の分野において、その他の医療機関や団体とも連携協力し、地域全体のレベルアップに向け取り組みを検討していきます。</p>		<p>しての活動をさらに充足する必要がある領域がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん登録 WG では、年 3 回 WG 会を実施し、検討を重ねながら浜松市内 4 拠点病院と協働し「浜松市におけるがん患者罹患数集計」を毎年作成している。内容は部位別・年代別、がん罹患 TOP 5、検診発見の部位・stage 別集計など、4 病院のがん登録を集約し、市内での統計情報を初めて作成した。浜松市にも協力をいただき、地域に向けて情報発信を行っていく。また、がん登録実務者のレベルアップに向けた研修会を実施し 80 名の参加があった。 その他としては、拠点病院の相互チェックも行い、がん登録データの質の向上も実施している。 ・就労支援では、4 拠点病院による定期的な検討の場が設けられ、静岡県・浜松市をはじめ静岡労働局、静岡産業保健総合支援センター、社会保険労務士会、浜松商工会議所などと連携を図り、毎年、就労支援ネットワーク協議会の開催やがんの治療と仕事の両立支援をテーマとした講演会の開催をした。 ・がん教育では、聖隷浜松病院単独で現在までに実施した授業が 7 回、養護教諭研修会での講演が 2 回、教育委員会関連の講演会を 2 回行っている。その他、地域に向けた情報発信ならび学会、研究発表などを通じ、学校ならび医療者側にごがん教育実施おけるハードルを下げ
--	--	--	---

			<p>るべく活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野で4拠点病院が情報共有し、地域住民および医療従事者に有益な情報を提供できるよう取り組んでいるが、一部項目についてはWGを立ち上げるに至らない。
<p>○ 市内の地域がん診療連携拠点病院は、国のがんゲノム医療体制の整備状況を踏まえ、ゲノム医療の提供に向けた準備を進めます。</p>	<p>がん診療連携拠点病院</p>	<p>◎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんゲノム医療連携病院としてがんパネル検査を実施し、静岡がんセンターのエキスパートパネルに参加している。今後の指定要件の継続や遺伝相談体制の連携などに課題がある。 ・聖隷浜松病院では、がんゲノム医療体制を院内で構築し、H30年10月よりがんゲノム医療連携病院に指定され、現在までに75件のゲノム診療を実施し、今後2件を予定されている。但し、『未承認薬又は適応拡大に関するがん薬物療法の企業治験、医師主導治験、又は先進医療Bにおいて新規の患者を過去3年の間に合計2人以上登録した実績がある』との指定要件を満たすことが出来ず、R3年12月をもって指定取り消しとなる。他施設との連携強化を図り、要件を一刻でも早く満たすよう院内一丸となって取り組んでいく。 ・がんゲノム連携病院として患者にげんゲノム遺伝子検査の選択肢を提供している。 	

2 北遠のがん対策

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
	○ 市内の4つの地域がん診療連携拠点病院は、市内のがん医療の均てん化を目指し、北遠地域で唯一、一般病床を有する病院である佐久間病院などとの連携協力を推進します。	がん診療連携拠点病院	◎	・通常の治療の一環として、北遠地域からのがん患者を受け入れ、診療している。
	○ 市内の4つの地域がん診療連携拠点病院は、地理的な事情から、がん相談支援センターへのアクセス時間がかかる北遠地域の市民への情報提供を充実するため、北遠地域内において、市民公開講座を開催します。また市民公開講座の終了後に、個別相談を受け付けるなど、相談支援を行います。	がん診療連携拠点病院	◎	・北遠地域での市民公開講座を開催し、終了後には個別相談を受けた。 ・R2年度はコロナ流行のために開催は見合わせた。 ・H30年10月に市民公開講座を実施した。個別相談も2名対応した。
	○ 聖隷三方原病院は、集団検診に継続して取り組み、女性特有のがんを含む、がんの早期発見に貢献します。また、ドクターヘリを運航することで、がん患者の急変時に対応します。	聖隷三方原病院	○	天竜地区の集団がん検診を行っている。北遠地域へのドクターヘリ出動回数は年間およそ100件である。
	○ 聖隷浜松病院は、佐久間病院へがん登録の方法の勉強会を行うことで、北遠地域への地域連携における技術支援をします。	聖隷浜松病院	○	R1年9月に院内がん登録実務者研修会を実施した。また、R3年10月に浜松市立佐久間中学校、静岡県立湖北高等学校佐久間分校へがん教育を実施し、がんについて正しく理解すること、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようになることを目標に実施した。
	○ 浜松医科大学医学部附属病院は、佐久間病院に対して、オンラインでの放射線診断など、がん診療に資する診療支援を行うことで、北遠地域のがん医療の質の向上に貢献します。	浜松医科大学医学部附属病院	◎	体制整備を行っている。
	○ 浜松医療センターは、佐久間病院に対して、婦人科の非常勤専門医を派遣するなど、がん診療に資する診療支	浜松医療センター	◎	年間3回訪問し、合計6人の婦人科検診を実施した。

	援を行うことで、北遠地域のがん医療の質の向上に貢献します。また、佐久間病院相談室に開設するがん相談支援機能への全般的な支援を行います。			
--	---	--	--	--

第5章 がんになっても安心して暮らせる地域社会の構築

1 相談支援、情報提供

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
①	相談支援、情報提供の推進			
	○ 市は、がん患者とその家族が、拠点病院のがん相談支援センターでの支援が受けられるよう周知します。	健康医療課	◎	市ホームページに掲載し、周知を図っている。
	○ 市は、拠点病院のがん相談支援センターや国立がん研究センター、静岡がんセンターからの適切な情報を取得できる環境を整備します。	健康医療課	○	市内拠点病院、県と連携し、情報収集に努めている。
	○ 市は、浜松市精神保健福祉センターにおいて、がん患者の家族、遺族を支援するため、個別相談と「がんでご家族を亡くされた方のつどい」を実施します。	精神保健福祉センター	◎	R2年度はコロナ流行のため個別相談は見合わせたが、R3年度は実施。
○ 市内の4つの地域がん診療連携拠点病院は、地理的な事情から、がん相談支援センターへのアクセスが悪い北遠地域の市民への情報提供を充実するため、市民公開講座の終了後などに、個別相談を受け付けるなど、相談支援を行います。	がん診療連携拠点病院	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度はコロナ流行のために開催は見合わせた。 ・H30年10月に市民公開講座を実施した。個別相談も2名対応した。 	
②	患者団体等との連携・協働			
○ 市内の4つの地域がん診療連携拠点病院は、がん患者やその家族の悩みを和らげるため、患者団体と連携を図りながら、患者サロン等のがん患者やその家族が自由に語りあえる場を設けます。	がん診療連携拠点病院	△	<ul style="list-style-type: none"> ・患者会は開催の予定であったが、R2年度はコロナの流行のために開催は見合わせている状況である。 ・毎月土曜日にミニ講座と共に患者サロンを実施し毎回10名程ご参加いただいていた。新型コロナウイルス感染の状況を鑑みて、R2年3月より当面中止をしていたが、R3年7月よりWebを利用した患者サロンを開始した。 ・患者主体のがんサロンを開催している。 	

<p>③</p>	<p>就労支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市は、市内の4つの地域がん診療連携拠点病院と連携し、市民へ治療と就労の両立支援の普及啓発活動を行います。 ○ 市は、がん患者とその家族に対して、がん診療連携拠点病院で開催される相談会などの就労支援に関する情報提供を進めていきます。 ○ 市は、がん患者の療養生活の質の向上及び就労や社会参加のできる体制にするため、医療従事者のアピアランスケアに関する知識習得の支援をします。 	<p>健康医療課</p>	<p>◎</p>	<p>市内の4拠点病院と連携し、就労支援研修会及びアピアランスケア等に関する医療従事者向け講演会を毎年実施し、普及啓発を図っている。</p>
----------	--	--------------	----------	--

2 在宅療養環境

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
①	行政サービスの適切な運用			
	○ 市は、今後も医師会等との連携や審査会の協力のもと、末期がん患者の介護認定審査までの期間を短縮し、在宅療養を希望する患者が適切な介護保険サービスを利用できる取り組みを推進します。	介護保険課	○	至急審査における所要日数は15~16日で、迅速に審査することにより速やかに利用できるよう取り組んでいる。
	○ 今後も、在宅療養を希望する患者が必要な行政サービス等を、速やかに利用できるよう、各制度の適切な運用を図っていきます。	介護保険課 健康医療課	○	介護給付の適正化、要介護認定体制の充実、低所得者・未納者への対策、制度の普及啓発等に取り組むことで、介護保険制度の適切な運営を図っている。
②	患者、家族の不安を解消する相談支援機関及び行政サービス等の情報提供			
	○ 市は、がん患者の療養生活に役立つ市内の相談支援機関、行政サービス等に関する情報を分かりやすく周知することによって、がん患者の療養生活の質の向上を目指すとともに、がん患者とその家族を支援します。	健康医療課	◎	市ホームページに連携拠点病院の情報を掲載し、周知を図っている。
③	在宅での看取(みとり)を支える在宅療養の充実に向けた取り組み			
	○ 市は、医療と介護の連携を図り、がん患者とその家族に最適な在宅療養を提供するためのネットワークづくりを強化し、地域包括ケアシステムを推進します。	高齢者福祉課 健康医療課	○	医療・介護・福祉分野の専門職が委員となり、地域包括ケアシステム推進連絡会を開催した。在宅医療と介護の更なる連携強化のため、今後も継続して実施していく。
	○ 市は、地域の医療・介護資源の把握と情報発信をすることで、在宅療養を希望するがん患者とその家族の利便性の向上を図ります。	介護保険課、 健康医療課	○	市ホームページに介護保険事業所一覧を掲載して利便性を図っている。
	○ 市は、がんに罹患しても自分自身の生活(療養)の場の選択ができるよう、市民に対し、在宅療養について普及啓発を図ります。	健康医療課	○	市内の4拠点病院と連携し、市民への普及啓発を図っている。
	○ 市は、北遠地域などの介護支援の現状を踏まえ、今後の在宅サービス提供量に不足のないよう、当該地域にサ	介護保険課 健康医療課	○	中山間地域における介護サービス提供確保のための事業を実施し、事業者への支援を図っ

	ービスを提供する事業者への支援を 充実させます。			ている。
--	-----------------------------	--	--	------

第6章 将来に向けた基盤整備

1 がんの教育、普及啓発

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
①	がん教育			
	<p>○ 市は、児童生徒が、がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることができるよう、教員を対象としたがん教育に関する研修等を実施していきます。</p> <p>○ 市は、保健や医療の関係部署とも連携しながら、がん教育の充実を図ります。</p>	健康安全課	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度から年1回、教員を対象とした研修会を実施した。 ・H1年度がん教育推進協議会を実施した。 ・R2年度から外部講師派遣事業を実施した。
②	がんに関する知識の普及啓発			
	<p>○ 市は、今後も市民公開講座の中で、市民に対してがん予防法及び早期発見についての普及啓発を行います。</p> <p>○ 市は、職域保健関係機関との連携・協働により、青壮年期からの生活習慣病の発症予防・重症化予防に取り組めます。</p>	健康増進課	○	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回開催する健康はままつ21講演会のテーマにがんや生活習慣病等に関する内容を取り上げて実施している。 ・健康はままつ21推進会議や専門職が職場に出向いて実施する「職場で健康講座」、官民連携で取り組む浜松ウエルネスプロジェクトにおける「がん検診受診キャンペーン」など、がんや生活習慣病の重症化・発症予防に関する情報提供や事業を実施している。 ・企業が行う健康経営の取組を支援している。
	<p>○ 市内の地域がん診療連携拠点病院は、市民公開講座を開催することで、市民に対してがんに関する知識の普及啓発を行います。</p>	がん診療連携拠点病院	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、さまざまながんをテーマに市民公開講座を実施している。令和2年度はコロナ流行のためオンデマンド配信を行った。 ・H30年、R1年と年3回市民公開講座を開催した。但し新型コロナウイルス感染の状況を鑑みて、R2年は開催出来ず、R3年に開催予定である。

2 人材育成

符号	今後の取り組み	実施主体	評価結果	評価の考え方
	○ 浜松医科大学医学部附属病院においては、質の高い医療が提供されるよう、先進的ながん医療研修の支援プログラムを通じ、がん治療に従事する医師、看護師、薬剤師等、各職種で地域の指導者を継続的に育成していきます。	浜松医科大学医学部附属病院	◎	実施している
	○ 市は、がん患者の療養生活を支える介護支援専門員等のがんに関する知識習得するための研修実施について検討します。	介護保険課 健康医療課	△	研修未実施